

口絵①（中扉兼）

127
城の歴史と縄張

埼玉の 城

改訂版

梅沢太久夫



鉢形城跡 『鉢形城2000』より引用加筆

はじめに

埼玉県のほぼ全域を包括する地域は北武蔵といわれ、中世前半には鎌倉幕府を根底から支えた武蔵武士を輩出した地域で、丹党、児玉党、横山党、猪俣党、村山党、野与党、私市党の武蔵七党と平良文を始祖とする坂東八平氏（秩父氏、畠山、河越、高山、江戸氏など）と呼ばれる武士集団がいた。

南北朝段階からの中世後期は、南北朝の動乱から鎌倉府の設置や、それを統括した管領上杉家の混乱等を通じて、前期の武士勢力が後退し、鎌倉公方、古河公方や管領家に連なる武士団を中心として、新たな勢力の台頭があったが、公方と管領、管領上杉家の内紛、後北条氏という新興勢力の台頭などによって、関東の戦乱は休むことがなかった。

特に鎌倉府の管領山内、扇谷両家を支えた上野、武蔵・相模の地域は多くの合戦が地域史を賑わし、この地域の有力武士団と、それを支えた中小在地領主層は、各地に多数の城館跡を残し、多くの伝承が残されてきた。

これを裏付けるように埼玉県教育委員会が1988年に発表した『埼玉の中世城館跡』調査報告書では合計679ヶ所の城館跡の存在が確認され、報告された。

この中には475ヶ所の周知の城館跡の他に、発掘調査の結果確認された多くの城館跡が城館跡地名表として記載された。

679ヶ所の城館跡の内訳は、館跡344ヶ所、城跡140ヶ所、屋敷73ヶ所、その他131ヶ所となっているが、それらの年代観はまちまちである。北武蔵の城館跡については、これまでに、1967年『日本城郭全集4』、1968年『埼玉の館城跡』、1983年『埼玉の古城址』、1989年『秩父路の古城址』が相次いで出版され、県内の城館跡の具体的内容が明らかにされた。1980年代以降調査研究が進み、縄張り、築城技術、築城集団、築城年代などが、機会あるごとに多くの研究者によって発表されてきたが、城郭の全体像を押し量る上で不可欠な縄張りの実測図や概略図が不完全であり、その性格、年代的位置づけも

未だ不明確のものが多かった。

そこで、前掲した先駆的研究成果を受け入れながら、城郭の記録等を整理し、改めて考古学的手法を駆使した実測図に近い城郭の縄張りが十分に理解できる概略図を作成することにした。

1980年に比企地方の城館跡についてその概要を『日本城郭大系5』に発表して以来、1995年以降、本格的に北武蔵全体の城郭調査を実施してきた。現地調査の一応の終結を見た2003年、北武蔵の中世城郭について、『城郭資料集成 中世北武蔵の城』を出版した。

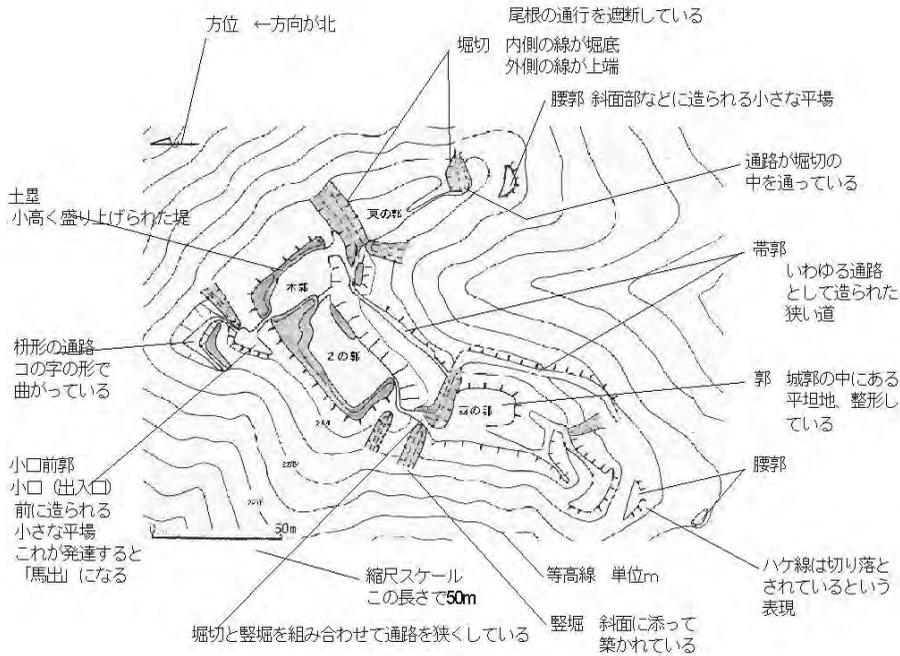
『城郭資料集成 中世北武蔵の城』は北武蔵の南北町期以降の中世後期を合戦史的観点から整理し、時期区分を行うと共に、その段階に出現する城郭を、多くの史料や城郭実測図・概略図等の比較によって、その段階の城郭がいかなるものであったかという概念を抽出することに努めた。当該期の城郭の分布や実測図・概略図からの型式分類を行う中で、その型式を生み出した集団を探ることに傾注したが十分追求することはできなかったのが現実であった。

また、これまで出版された城郭に関する説明では、その役割や、築城者、城主などについて、地域の伝承や戦記物、あるいは戦前からの古い城郭観のままで、1970年代以降盛んになった歴史考古学や、自治体史の編纂を契機として学術的な研究の深化が見られた2000年以降でもそれが主流であったと考えている。特に、城郭とは何かという点に関しては、往時の地域支配者の城であったと言う視点で見られることが多く、どんな小さな城郭遺構でも、その地域に伝えられていた武士の本拠地を合戦から守る城として語られてきた感が強い。私自身も、中世史料の読み込みが不足し、戦国時代の史料をベースにした地域史を考える上での城郭研究は全く不十分なものであった。

『城郭資料集成 中世北武蔵の城』は岩田書院から500部が出版されたが、数年で完売し、その後も多くの方々から根強い再版希望が筆者の元に寄せられた。城郭調査は出版後も継続して行って来たが、秩父地域では堀口進午さん、山中雅文さんの調査・資料提供などもあって、新たな城郭の発見調査が行えた。更に入間地域の山間部において調査未了であった城郭も調査し、新規に6城跡を資料として追加することができた。また、先の出版後、新たに城郭の発掘調査も進み、出

土遺物の考古学的研究の進展もあって新たな評価が加えられ、私自身は、戦国史料を中心にした地域研究に取り組む等、大きな変化があった。そこで、これらの新たな知見と、それに基づく評価を加え、戦国史研究をベースに改めて諸城の内容を再検討し、不備や誤りを修正した上で『埼玉の城』として出版することとした。

なお、城郭図は基本的には市町村発行の2500分の1の地形図等を利用して現地で観察した結果を記入して作図した縄張略図であるが、市町村等が作成した測量図があるものはそれを拝借して加筆修正する等して使用させていただいたものもある。できるだけ理解しやすいよう作成したが理解しづらい点もあろうかと考え、下記にその見方を示す。



はじめに — 1

第1章 北武蔵の中世城郭について — 7

第1節 合戦史からの区分 7

◆第Ⅰ期 7

◆第Ⅱ期 10

【1. 前半『上杉禅秀の乱から結城合戦』 10

【2. 中頃『享徳の大乱』】 11

【3. 後半『長尾景春の乱』】 12

◆第Ⅲ期『長享年中の大乱』 13

◆第Ⅳ期 15

【1. 前半 後北条氏の関東進出】 16

【2. 後半 後北条氏の関東支配確立期】 17

第2節 築城技法による分類 19

【1. 腰越城タイプ】 19 【2. 鉢形城タイプ】 21

【3. 高見城タイプ】 22 【4. 花園城タイプ】 22

【5. 塩沢城タイプ】 25 【6. 二重囲画タイプ】 27

【7. まとめ】 31

第2章 北足立地域の城郭 — 41

寿能城跡〔さいたま市〕 41 岩付城跡〔さいたま市〕 42

戸塚城〔川口市〕 47 蕨城跡〔蕨市〕 49

岡城跡〔朝霞市〕 50 柏の城跡〔志木市〕 52

菅谷北城跡〔上尾市〕 54 (伝) 源経基館跡〔鴻巣市〕 55

加納城跡〔桶川市〕 56 三ツ木城跡〔桶川市〕 57

武〔たけ〕城跡〔桶川市〕 59 石戸城跡〔北本市〕 60

堀ノ内館跡〔北本市〕 62 伊奈城跡〔伊奈氏屋敷跡〕〔伊奈町〕 63

第3章 入間地域の城郭 — 66

河越城跡〔川越市〕 66 河越館跡・上戸陣跡〔川越市〕 70

大堀山館跡〔川越市〕 74 広谷宮前館跡〔川越市〕 75

戸宮前館跡〔川越市〕 76 宮廻館跡〔川越市〕 78

滝の城跡〔所沢市〕 81 山口城跡〔所沢市〕 84

所沢根古屋城跡〔所沢市〕 86 リュウガイ城跡〔飯能市〕 88

小瀬戸城跡〔飯能市〕 89 大河原城跡〔飯能市〕 90

リュウガイ山城跡・岡部屋敷跡〔飯能市〕 92

吉田山城跡〔飯能市〕 94 本陣山砦跡〔飯能市〕 95

河又城跡〔飯能市〕 96 名栗根古屋城跡〔飯能市〕 97

柏原城跡〔城山砦〕〔狹山市〕	99	難波田城跡〔富士見市〕	100
多和目城跡〔坂戸市〕	102	浅羽城跡〔坂戸市〕	103
毛呂城跡〔旧名 毛呂氏館跡〕〔毛呂山町〕	104		
竜谷山城跡〔要害山〕〔毛呂山町〕	106	高取山城跡〔越生町〕	107

第4章 比企地域の城郭 — 110

青鳥城跡〔東松山市〕	110	足利基氏館跡〔東松山市〕	112
高坂館跡〔東松山市〕	113	青山城跡〔小川町〕	114
腰越城跡〔小川町〕	116	高見城跡〔四津山城〕〔小川町〕	119
中城跡〔小川町〕	121	高谷砦跡〔小川町〕	123
古寺砦跡〔小川町〕	124		
菅谷城跡〔国指定名称は「菅谷館跡」〕〔小川町〕	124		
杉山城跡〔嵐山町〕	128	越畑城跡〔嵐山町〕	132
谷ツ遺跡城郭遺構〔嵐山町〕	133	羽尾城跡〔宮前城〕〔滑川町〕	134
山田城跡〔滑川町〕	136	山崎城跡〔滑川町〕	138
谷城跡〔滑川町〕	139	三門館跡〔滑川町〕	140
水房館跡〔小山館〕〔滑川町〕	142	松山城跡〔吉見町〕	143
大築城跡〔ときがわ町〕	149	小倉城跡〔ときがわ町〕	153
安戸城跡〔東秩父村〕	157		

第5章 秩父地域の城郭 — 159

金仙寺城跡〔下原城〕〔秩父市〕	159	諏訪城跡〔秩父市〕	160
永田城跡〔秩父市〕	161	根岸城跡〔秩父市〕	163
寺尾城跡〔秩父市〕	165	宮崎城跡〔秩父市〕	166
久昌寺砦〔秩父市〕	167	秩父氏館跡〔別称 吉田城〕〔秩父市〕	168
小暮城跡〔秩父市〕	169	吉田龍ヶ谷城跡〔秩父市〕	171
寺山砦跡〔物見平〕〔秩父市〕	173	比丘尼城跡〔秩父市〕	174
女部田城跡〔別称城山〕〔秩父市〕	176		
日野城跡〔熊倉城、真建城〕〔秩父市〕	178		
贄川城跡〔秩父市〕	181	室山城跡〔秩父市〕	182
合角城郭遺構〔小鹿野町〕	183	日尾城跡〔小鹿野町〕	184
鷹谷砦跡〔小鹿野町〕	186	小鹿野要害山砦跡〔小鹿野町〕	188
三山下郷向山砦跡〔小鹿野町〕	189	小鹿野両谷城跡〔小鹿野町〕	192
塩沢城跡〔小鹿野町〕	193	千馬山城跡〔竜ヶ谷城跡〕〔皆野町〕	195
高松城跡〔皆野町〕	198	浦山城跡〔皆野町〕	200
天神山城跡〔長瀨町〕	202	仲山城跡〔長瀨町〕	205
横瀬根古屋城跡〔横瀬町〕	207	古御岳城跡〔横瀬町〕	211

第6章 児玉地域の城郭 — 212

本庄城跡〔本庄市〕	212	五十子城跡〔本庄市〕	213
四方田氏館跡〔本庄市〕	215	雉岡城跡〔本庄市〕	216
金窪南城跡〔上里町〕	218	金窪城跡〔上里町〕	220
阿保境館跡〔上里町〕	221	安保氏館跡〔神川町〕	224
金鑽御嶽城跡〔神川町〕	226	両谷城跡〔神川町〕	229
猪俣城跡〔美里町〕	231	白石城跡〔美里町〕	232
円良田城跡〔虎ヶ岡城〕〔美里町〕	234	新倉館跡〔美里町〕	235

第7章 大里地域の城郭 — 236

別府城跡〔熊谷市〕	236	成田氏館跡〔熊谷市〕	237
深谷城跡〔深谷市〕	238	東方城跡〔深谷市〕	240
皿沼城跡〔深谷市〕	242	疋鼻和城跡〔深谷市〕	242
鉢形城跡〔寄居町〕	244	花園城跡〔寄居町〕	253
花園御獄城跡〔寄居町〕	257	要害山城跡〔寄居町〕	258
用土城跡〔寄居町〕	260		

第8章 北埼玉・北葛飾地域の城郭 — 262

忍城跡〔行田市〕	262	皿尾城跡〔行田市〕	265
須賀城跡〔行田市〕	266	羽生城跡〔羽生市〕	267
堀越館跡〔羽生市〕	269	花崎城跡〔加須市〕	270
油井城跡〔鐘撞山〕〔加須市〕	272	騎西城跡〔加須市〕	273
菖蒲城跡〔久喜市〕	276	幸手城跡〔幸手市〕	277
天神島城跡〔幸手市〕	277		

参考 引用・参考文献目録 — 279

おわりに — 289

※初版『埼玉の城』巻末資料にあった「埼玉の城館関連年表」は、『武蔵戦国歴史年表』として内容の整理と共に大幅に項目を追加して独立した単行本となりました。
そのため『埼玉の城』改訂版刊行にあたり、該当部分は削除するかたちとなりましたことご了承ください。（まつやま書房編集部）

第1章 北武蔵の中世城郭について

第1節 合戦史からの区分

北武蔵についてはこれまで、機会あるごとに合戦史を中心に時期区分についてふれてきた（梅沢 1979、1992、2000、2001）が、改めて記録や文献の熟読さの不完全を修正し再考することとする。埼玉県ほぼ全域となる北武蔵の地域は、中世後期、幾多の合戦の舞台となったことはすでに多くの研究によって明らかにされているところである。幸い『新編埼玉県史』や市町村史の刊行が積極的に行われたことによって、地域史が身近なものになったが、改めて集成した合戦史は付編に示した「埼玉の城郭関係年表」（279頁）のようになる。中世後期はこの合戦史や、合戦の原因となった背景や主体となった武士団などによって、

第Ⅰ期・建武の中興に関わる足利尊氏と新田義貞を中心に展開される室町幕府創設までの混乱期

第Ⅱ期・幕府開設以後鎌倉公方から古河公方と管領との確執をめぐる混乱期

第Ⅲ期・関東管領家の権力争い期

第Ⅳ期・後北条氏の関東進出に伴う混乱から後北条氏の滅亡

という段階に区分される。そして、第Ⅱ期は中心となった人物から3期に細別し、Ⅳ期は後北条氏が関東支配に進出した段階と、支配権を確立した段階とに細別した方が理解しやすいと考える。

■第Ⅰ期

1333年から1392年頃の建武の新政を中心として、鎌倉幕府の滅亡からの南北朝動乱期を捉えた。合戦史の記録から読みとれるところでは、新田義貞が進軍した上野から鎌倉までの鎌倉街道上ツ道を中心に合戦場が存在し、その主たる場面は安保原、高麗原、入間河原、小手指原合戦等と名付けられることに知られるとおり、原野や河原で合戦を繰り返している事が知られる段階である。これらの記録には城郭の記録が少なく、城郭が合戦の中で主体的なものではなかった段階といえよう。

鎌倉幕府崩壊の後、南北朝の動乱を通じて武蔵では大きな勢力の交代が行われ、安保氏が北武蔵の有力武将として台頭している。

南北朝動乱期には建武4年（1334）12月に北畠顕家は利根川を渡河し、阿保原や浅見山で足利軍と合戦を交えている。「武蔵野合戦」では將軍足利尊氏と南朝方の征夷大將軍宗良親王・新田義宗らの戦いが、文和元年（1352）に武蔵人見原、金井原、小手指ヶ原、入間河原、高麗原等で相次いで行われてい

る。この時、新田方の武将として児玉党の浅羽・四方田・庄・若児玉・丹党の安保・加治・勅使河原の各氏など、足利方には河越・高坂・江戸・豊嶋・古尾谷・高麗・別符・久下の各氏などが参戦しているという。阿保境館第Ⅰ-1期はこの段階の館跡である。

鎌倉公方基氏の畠山国清の執事職解任と、それに続く上杉憲顕関東管領補任をめぐって起こった混乱では、貞治2年(1363)8月26日に起こった苦林野と岩殿山の合戦がある。越後守護を奪われた芳賀禪可は、苦林および岩殿山で平一揆や白旗一揆を率いた足利基氏と合戦し敗退した。東松山市岩殿所在の足利基氏館跡は、このときの陣跡と伝えられる。

応安元年(貞治7年・1368)におこった河越直重相模守護職解任に伴って、河越氏、高坂氏を中心とする平一揆(河越・高坂・江戸・古尾谷・竹沢・土屋・豊島氏など)は河越館に立て籠もって足利氏満に背いたが、6月17日には足利氏満、上杉憲顕らに敗退した。これを契機に高坂氏、竹沢氏などの旧勢力支配が崩れ、国人層の支配が管領上杉氏へと大きく変わったという(藤木1985a)。藤木氏はこの段階に松山城主の上田氏出現期を想定している。

この合戦史から城郭の形成期を考えると、県内では鎌倉時代から存在した河越館の他、阿保境館、新倉館の他、入間川館や足利基氏館と伝えられる館跡が存在した可能性が知られるが、これらの館跡は方形館を主体にし、それを拡張

合戦分布図(第1期)



の跡なるにや、その塚上に治部左衛門の先祖宮内が遙拝の爲に建りとて、出羽守資忠の墓碑あり、其碑陰に元文三年潮田勘右衛門資方と称せし人の記せし銘文を彫りたり、此資方は（佐倉城主）土井大炊頭（利勝）の家人にして、出羽守資忠が六世の孫なりと云、銘の略に云、潮田出羽守資忠は源三位頼政十九世の孫、太田美濃守資正の第四子にして、武州足立郡大宮壽能城主たりしに、天正十八年四月十八日、相州小田原に於て討死せしゆへ、家臣北澤宮内城地に於て、此塚を営み、祭祀の禮を失はずして今に至れり、云々」と記される。

遺構 城跡は大宮公園東側、埼玉県立博物館東の大宮台地東縁に位置する。東前方は見沼田圃で、城は北、東、南の3方を見沼の沼地に囲まれる舌状台地先端部に築城されていた。東西約800m、南北約400mであったという。現在城の遺構を見ることはできず、今は『新編武蔵風土記稿』の記録にその面影を認めるだけである。寿能団地の入り口の交番脇に「寿能城址」という石碑のみ見ることができる。城跡公園は本丸跡と伝え、潮田出羽守資忠の墓石がある。出丸部分は住宅地と南部が公園地となるが、城跡の面影はない。『埼玉県史第4巻』には本丸には東北部より東部にかけて高さ約1m、延長109mの土塁が存在していたことを記している。

案内 東武野田線大宮公園駅南方、産業道路寿能団地入り口から入る。

岩付城跡

所在地 さいたま市岩槻区岩槻 269 他。北緯 35.571007, 東経 139.423055, 標高 9.0, 他

歴史 岩付城は長禄元年（1457）太田資清（道真）、資長（道灌）父子によって築城されたと伝えるが、『鎌倉大草子』では永享12年（1440）の永享の乱の時、村岡河原の合戦には岩付より後詰め出兵とあって『岩槻市史通史編』では、この段階に岩槻に扇谷上杉方の軍事的施設が置かれていたと考えている。岩付城を築いたとされる太田氏は元來相模を中心に勢力を持っていたものと思われる。関東管領上杉氏の一家「扇谷」に属し、家宰として勢力を伸ばしていった。

岩付城は享徳の大乱時において、古河公方勢力と上杉勢力との境目を形成する元荒川を前面に置き、上杉勢力圏の最前線に築かれた城郭である。菖蒲城と常に対峙し、同時期太田氏築城と伝える河越城、江戸城と共に関東南部の扇谷上杉勢力圏を守る大きな役割を担っていたと思われる。

道灌死後養子資家、子資頼と続いて城主となり、子資正（三楽齋）が跡を継ぎ上杉方として孤塁を守る。永禄7年嫡子氏資によって追放され、太田資正・政景父子は、忍の成田氏から宇都宮氏の元に身をよせたが、その後、常陸佐竹氏の客将として片野城・柿岡城を与えられ、佐竹氏を中心に活躍をしている。父子の願いは岩付城への復帰ただ一つであったが、その願いは後北条氏滅亡以

後も叶うことはなかった。永禄 10 年（1567）太田氏資が上総で戦死し、太田氏が消滅すると、完全に後北条氏の支配下入り、天正 8 年になって氏政 3 男源五郎が太田の名跡を嗣ぐが、天正 10 年に没し、氏政 4 男北条氏房が太田の名跡を再び継承している。

2001 年黒田基樹氏は、岩付城の築城ならびに築城者について、「関東禅林詩文等抄録」〔東京大学史料編纂所蔵〕信濃史料刊行会編 1971『信濃史料』第 10 巻の史料を分析して、「（前略）「武州崎西郡有村、曰岩付、又曰中扇、附者伝也、岩付左衛門丞顕泰公父故金吾、法譚正等、狭武略之名翼。有門闌之輝、築一城」という記述がみられる。文中の〔岩付左衛門丞顕泰〕はすなわち成田顕泰であり、その父自耕斎正等が岩付城を築いたことがみえている。顕泰の父は文明 16 年（1484）4 月 8 日の死去と伝えられているので、正等による岩付築城は少なくともそれ以前のことであろう。そして同史料が記されたのは明応 6 年（1497）のことであり、成田顕泰が岩付の地名を冠されて呼称されていることから、成田氏は同年まで岩付城に在城していたとみて間違いなからう。（後略）」として発表（黒田 2001）した。

この考えは、岩付城築城に関するこれまでの通説を覆しかねない大きな指摘であり、小宮勝男氏、青木文彦氏から強い反論も出された。黒田氏が根拠とした「〔岩付左衛門丞顕泰〕はすなわち成田顕泰」との比定は短絡的で有り、根拠が示されていない。この前提が無ければその後の展開も全くなくなってしまふ。青木氏は逐一黒田氏の論拠を取り上げて批判的に検証し、小宮氏の考えを



参考・引用文献目録

- 青葉伊左吉 1956 『吉田城跡』
- 青木克彦ほか 1997 『深谷城跡（第6次）』 深谷市文化財調査報告第52集
- 青木文彦 2015 「戦国時代の岩付城とその周辺」『戦国時代は関東から始まった』
埼玉県立嵐山史跡の博物館シンポジウム資料
- 朝霞市 1989 『朝霞市史』 通史編
- 朝霞市教育委員会 1997 『朝霞のれきし』
- 浅倉直美 1988 「第4章後北条氏の武蔵支配」『新編埼玉県史』 通史編2
- 浅倉直美 1997 『後北条領国の地域的展開』 岩田書院
- 安藤隆ほか 1998 『山口城跡第7次調査／下安松遺跡第4次調査』
所沢市埋蔵文化財調査報告書第15集 所沢市教育委員会
- 安藤隆ほか 2002 『山口城跡—第8次調査—』
所沢市埋蔵文化財調査報告書第28集 所沢市教育委員会
- 稲村太郎ほか 2013 『城山遺跡第71地点』 志木の文化財第54集
- 井口信久 2002 『宮廻館跡（第2次調査報告書）』
川越市遺跡調査報告書第25集 川越市遺跡調査会
- 池田光雄 1988 「堀内障壁の一形態について—
後北条氏領国下のいわゆる障子堀、畝堀を中心に—」
『中世城郭研究』 第2号 中世城郭研究会
- 池田光雄 1989 「堀内障壁の一形態について—全国の類例を考える—」
『中世城郭研究』 第3号 中世城郭研究会
- 石川安司 2005 『埼玉県指定史跡小倉城跡』 第1次発掘調査報告書
玉川村教育委員会
- 石川安司 2005 『埼玉県指定史跡小倉城跡』 第2次発掘調査報告書
玉川村教育委員会
- 石塚三夫 2006 『史跡鉢形城跡第1期保存整備事業発掘調査報告』
寄居町教育委員会
- 伊奈町 2008 『伊奈一族の活躍』 伊奈町史別編
- 井上幸治 1934 「小田原北条時代における秩父」（一）～（三）
『埼玉史談』 第6巻第1号～第3号
- 井上幸治 1935 「小田原北条時代における秩父」（四）
『埼玉史談』 第6巻第5号
- 伊禮正雄 1969 「一つの謎・杉山城址考」『埼玉史談』 第16巻第3号
- 伊禮正雄 1974 『関東合戦記』 新人物往来社
- 伊禮正雄ほか 1972 『畠山重忠と菅谷館跡』 比企の自然と文化財を守る会
- 岩槻市教育委員会 1997 『岩槻城関連遺跡群発掘調査報告書』 1

- 岩槻市教育委員会 1993『岩槻城樹木屋敷発掘調査報告書』
岩槻市教育委員会 1998『岩槻城関連遺跡群発掘調査報告書』2
岩槻市立郷土資料館 2002『企画展 岩付の中近世遺跡—岩槻城とその時代—』
植木 弘 1998「比企の中世館跡」
『比企歴史の丘シンポジウム 比企の中世を語る』資料
宇高良哲 1988「安保氏の御嶽落城と関東管領上杉憲政の越後落
—新出資料身延文庫蔵『仁王経科註見聞私』奥書の紹介を
中心として—」 『埼玉県史研究』第22号
内田康夫ほか 1997『四津山』 小川町遺跡調査会
梅沢太久夫 1980「東松山市・比企郡市の各城館跡」
『日本城郭大系』5 新人物往来社
梅沢太久夫 1981 a『中城跡発掘調査報告書』小川町教育委員会
梅沢太久夫 1981 b「慈光寺僧坊跡群について」
『埼玉考古』第12号 埼玉考古学会
梅沢太久夫 1989「比企西部の3城について—特に小口に見られる共通性—」
『歴史資料館研究紀要』第11号
梅沢太久夫 1992「埼玉における中世城郭について
—特に比企における城郭とその成立年代—」
『埼玉教育』No.522 埼玉県立南教育センター
梅沢太久夫 1998「大築城跡」『都幾川村史資料』2 考古資料編 都幾川村
梅沢太久夫 2000「北武蔵の中世城郭について」
『埼玉考古』第35号 埼玉考古学会
梅沢太久夫 2001 a「〔吉田の楯〕について」
『埼玉県立歴史資料館研究紀要』第23号 埼玉県立歴史資料館
梅沢太久夫 2001 b『秩父・中世吉田町の城101』 吉田町教育委員会
梅沢太久夫 2002「後北条氏ゆかりの城郭について」
『埼玉県立歴史資料館研究紀要』第24号 埼玉県立歴史資料館
梅沢太久夫 2003『城郭資料集成 中世北武蔵の城』岩田書院
梅沢太久夫 2006『武蔵松山城主上田氏』戦国動乱250年の軌跡
さきたま出版会
梅沢太久夫 2011『改訂版 武蔵松山城主上田氏』まつやま書房
梅沢太久夫 2012『松山城合戦』戦国合戦の虚と実を探る まつやま書房
梅沢太久夫 2013『戦国の境目』秩父谷の城と武将 まつやま書房
梅沢太久夫 2015『北条氏邦と鉢形領支配』まつやま書房
梅沢太久夫・内田康夫 1990『武蔵腰越城』腰越城跡保存会
梅沢太久夫・小野義信 1977『菅谷館跡』
埼玉県埋蔵文化財調査報告第6集 埼玉県教育委員会

- 梅沢太久夫・小野義信 1982『国指定史跡菅谷館跡環境整備事業実施報告書』
埼玉県教育委員会
- 梅沢太久夫・小野義信・小野美代子 1979『越畑城跡』埼玉県教育委員会
浦和第1女子高等学校郷土研究部 1980『中世武蔵武士館跡の研究』I
一兄玉党四方田氏館について一
- 桶川市教育委員会編 1985『桶川の城館跡』
- 太田市教育委員会 1996『金山城と由良氏』太田市教育委員会
- 太田博之 2002『東五十子・川原町』東五十子遺跡調査会
- 大谷徹 2008『宮廻館跡Ⅱ』（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告
第354集
- 太田賢一 2005『町内遺跡Ⅰ』武州松山城跡第一次・第二次発掘調査報告書
吉見町教育委員会
- 大多和晃紀 1977『関東百城』有峰書店
- 大村進編著 1990『北本市史』第3巻下古代・中世資料編 北本市
- 岡本幸男ほか 1980『武蔵新倉館』美里村教育委員会
- 小川町教育委員会 2008『町内遺跡群発掘調査報告書XV』
埼玉県指定史跡腰越城跡
- 小野正敏 1996「金山城と権力の表現」『金山城と由良氏』太田市教育委員会
- 小野正敏 1997『戦国城下町の考古学一乗谷からのメッセージ』講談社
- 小野義信 1984「菅谷館跡の発掘調査」『武蔵野の城館址』名著出版
- 小野義信 1984『滑川村史』比企郡滑川村
- 小和田哲男 1984「後北条氏の鉢形領と鉢形城」『武蔵野の城館址』名著出版
- 加須市 1984『加須市史』資料編I
- 加須市教育委員会 2016『騎西城武家屋敷跡』KB7・8・11・12区
第16・23次調査一中近世編一
- 加須市教育委員会 2016『騎西城武家屋敷跡』KB10区調査
一中近世編一遺物I
- 神奈川県立博物館 1989『後北条氏と東国文化』
- 金子金治郎 1993『旅の詩人宗祇と箱根』かなしん出版
- 金子直行ほか 2001『川越城／小在家Ⅱ』〔財〕埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 加茂下仁 1988「第3章第1節3 長尾景春の乱と太田道灌」
『新編埼玉県史』通史編2中世
- 加茂下仁 1992「中世末期の秩父一日尾・上吉田の山城を起点として一」
『合角ダム水没地域総合調査報告書』下巻人文編
歴史 石造物 民俗
- 加茂下仁 1992「中世末期の秩父」『合角ダム水没地域総合調査報告書下巻
人文編』合角ダム水没地域総合調査会

- 加茂下仁ほか 1982『長尾景春と熊倉城』 荒川村郷土研究会
加茂下仁ほか 1994『秩父に残る戦国期の甲冑について
—戦国期の土豪の実像を求めて—』
神川町教育委員会 1994『庚申塚・愛染遺跡・安保氏館跡・諏訪ノ木古墳』
川口市 1988『川口市史』通史編上巻
川口市遺跡調査会 2003『戸塚城跡発掘調査現地説明会資料』
川越市教育委員会 1971～『河越館跡』I～IX
川越市教育委員会 2000『川越城二の丸跡』発掘調査報告書
川越市立博物館 2000『河越氏と河越館』
川越市立博物館 2010『よみがえる河越館跡』河越館跡の発掘—その成果と
課題
騎西町 2001『騎西町史』考古資料編
騎西町教育委員会 1981『私市城跡』一二の郭発掘調査と外堀の試掘—
北区 1995『北区史』古代・中世2 東京都北区
北本市教育委員会 2002『石戸城跡』第1～3次調査
北本市教育委員会 2013『石戸城跡保存管理計画及び石戸城跡整備基本計画書』
木戸春夫ほか 2004『戸宮前 / 在家 / 宮廻 /
(財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告第297集
行田市 1958『行田市史』
行田市郷土博物館 1989『研究報告』Vol.1—忍城跡の発掘調査—
栗原文蔵 1988「埼玉県出土の備蓄古銭について(補遺)」
『埼玉県立歴史資料館研究紀要』第10号
栗原一夫 2009『逸見若狭守の研究』
黒田基樹 1995『戦国大名北条氏の領国支配』 岩田書院
黒田基樹 2001『戦国期の東国の大名と国衆』 岩田書院
黒田基樹 2012『武蔵成田氏』論集戦国大名と国衆7 総論 岩田書院
群馬県 1986『群馬県史』資料編7 中世3編年史料2
群馬県教育委員会 1988『群馬県の中世城館跡』
小林 茂 1980「高松城跡」『日本城郭大系』5 新人物往来社
小宮勝男 2011『岩付城は誰が築いたか』さきたま出版会
小宮山克己 1999「北足立郡北部の中世遺跡」『埼玉の文化財』第40号
小宮山克己 1999『小川町の歴史』資料編1 考古 小川町
小室栄一 1965『中世城郭の研究』 人物往来社
小室栄一編 1984『武蔵野の城館址』 名著出版
小室栄一ほか 1967『日本城郭全集』第4巻 人物往来社
小要 博 1993『蕨城跡』『埼玉県の地名』 平凡社
さいたま市立博物館・同浦和博物館編 2006『戦国時代のさいたま』
埼玉県遺跡調査会 1972『加倉・西原・馬込・平林寺』

- 埼玉県 1928 『埼玉県史跡名勝天然記念物調査報告』第4輯
 埼玉県 1980 『新編埼玉県史』資料編6 中世2 古文書2
 埼玉県 1980 b 『新編埼玉県史』資料編8 中世4 記録2
 埼玉県 1982 『新編埼玉県史』資料編5 中世1 古文書1
 埼玉県 1988 『新編埼玉県史』通史編2 中世
 埼玉県教育委員会 1968 『埼玉の館城跡』
 埼玉県教育委員会 1974 『青鳥城跡』埼玉県遺跡発掘調査報告書第6集
 埼玉県教育委員会編 1998 『埼玉県史料叢書』4 埼玉県
 埼玉県教育委員会編 1987 『荒川の水運』歴史の道調査報告書第7集
 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 『戸宮前 / 在家 / 宮廻』
 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 1999 『城見上 / 末野Ⅲ / 花園城跡 / 箱石』
 埼玉県埋蔵文化財調査事業団 『赤羽・伊奈氏屋敷跡』
 埼玉県立歴史資料館編 1979 『六反田』埼玉県教育委員会
 埼玉県立歴史資料館編 1988 『埼玉の中世城館跡』埼玉県教育委員会
 埼玉県立歴史資料館編 1992 『埼玉の中世寺院跡』埼玉県教育委員会
 埼玉県立歴史資料館編 2005 『戦国の城』高志書院
 埼玉県立嵐山史跡の博物館編 2007 『後北条氏の城』
 埼玉県立嵐山史跡の博物館編 2010 『遺物が語る中世の館と城』
 斎藤慎一 1996 「坂戸に残る中世城館—多和目城—」
 『浅羽城と城絵図』『中世のさかど』坂戸市教育委員会
 斎藤慎一 2002 『中世東国の領域と城館』吉川弘文館
 斎藤慎一 2007 「戦国時代の河越城」『シンポジウム戦国時代の河越城』
 斎藤慎一 2008 「戦国大名北条家と城郭」『中世東国の世界』高志書院
 酒井清治 1984 『東北新幹線関係埋蔵文化財発掘調査報告書』Ⅱ
 赤羽・伊奈氏屋敷跡 (財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団
 坂戸市 1992 『坂戸市史』通史編
 幸手市史編さん室 2000 『幸手一色氏—系図から伝承まで—』
 幸手市史調査報告書第9集
 佐藤博信 1988 「第3章第1節2 享徳の大乱と武蔵」
 『新編埼玉県史』通史編2 中世 埼玉県
 狭山市 1982 『狭山市史』中世資料編
 狭山市 1996 『狭山市史』通史編Ⅰ
 澤出晃越 1991 『深谷城跡』深谷市教育委員会
 塩野 博 1968 『武蔵加納城址』埼玉県遺跡調査会調査報告第2集
 塩野博・小野義信 1972 『菅谷館跡』埼玉県発掘調査報告書第14集
 埼玉県教育委員会
 塩野博・田中利治・吉川閑夫 1985 『桶川市の館城跡』桶川市教育委員会

- 志木市 1986『志木市史』中世資料編
志木市 1990『志木市史』通史編上
志木市史編さん室 1981「館村旧記抄」 『志木風土記』第2集
史跡を活用した体験と学習の拠点形成事業実行委員会編2005 『検証比企の城』
篠崎 潔 1995『安保氏館跡』 神川町遺跡遺跡調査会
篠崎潔・平田重之 1989『臼樹原・檜下遺跡Ⅰ（阿保境の館跡）』中世編
臼樹原・檜下遺跡調査会
柴田龍司 1991「中世城館の画期—館と城から館城へ—」
『中世の城と考古学』新人物往来社
城近憲市 1979「人間郡市」 『日本城郭大系』5 新人物往来社
嶋村英之ほか 2016『騎西城武家屋敷跡』KBT・8・11・12区、
第16/23次調査 加須市教育委員会
嶋村英之ほか 2017『騎西城武家屋敷跡』KB10区調査 加須市教育委員会
菅谷浩之ほか 1980『武蔵新倉館』 埼玉県児玉郡美里村教育委員会
鈴木孝之 1996『深谷城跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第174集
鈴木孝之ほか 1999『城見上／末野Ⅲ／花園城跡／箱石』
埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第211集
鈴木宏美 1986「第3編第1章第3節」『寄居町史』通史編
寄居町教育委員会
関口和也 1990「埼玉県川越市下広谷の城址群」『中世城郭研究』第4号
中世城郭研究会
関口和也 1991「埼玉県西部の城址群（Ⅰ）」『中世城郭研究』第5号
中世城郭研究会
関口和也ほか 1987『図説中世城郭事典』第1巻 新人物往来社
高橋一夫 『伊奈氏屋敷跡』（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告第31集
高柳 茂 1989「滑川町の中世城館跡」『研究紀要』第5号
埼玉県立桶川高等学校
竹井英文 2007「戦国期東国の戦争と城郭—「杉山城問題」によせて」
『千葉史学』第56号
竹村雅夫ほか 1967『日本城郭全集』第4巻 人物往来社
田中和之 1999「菖蒲地域の中世遺跡」『埼玉の文化財』第40号
埼玉県文化財保護協会
田中 信 1999「人間地域の中世遺跡」『埼玉の文化財』第40号
埼玉県文化財保護協会
田中 信 2000「河越館跡の発掘調査とその成果について」
『河越氏と河越館』 川越市立博物館
田中 信 2002『戸宮前館跡（第1次調査）』
川越市遺跡調査報告書第26集 川越市遺跡調査会

- 田中 信 2008 「上杉・後北条氏攻防の城—河越城—」
『三館連係シンポジウム 後北条氏の城—合戦と支配—』
博物館周辺文化財の複合的活用事業実行委員会
- 田村誠・金子彰男 1994 『庚申塚遺跡・愛染遺跡・安保氏館・諏訪ノ木古墳』
神川町教育委員会
- 知久裕昭 2002 「深谷城の再検討」 『埼玉考古』 第37号 埼玉考古学会
中世を歩く会 2002 a 『在地土器検討会資料集』
—北武蔵のカワラケ—同シンポジウム発表コメント
- 中世を歩く会 2002 b 『在地土器検討会—北武蔵のカワラケ—記録集』
東国中世考古学研究会 2010 『小田原北条氏の城郭』
発掘調査から見るその築城技術
- 所沢市 1991 『所沢市史』 通史編上
- 所沢市教育委員会 1981 『山口城跡』 所沢市文化財調査報告第7集
- 所沢市教育委員会 1990 『滝の城跡（第4次）ほか』
所沢市文化財調査報告第26集
- 所沢市埋蔵文化財調査センター 2011～2014
「滝の城第1調査から第4次調査」 『同年報18～21』
- 富田勝治 1986 「研究ノート 初見の花崎城史料」
『埼玉地方史』 第19号 埼玉県地方史研究会
- 富田勝治 1992 『羽生城—上杉謙信の属城—』
- 利根川宇平 1961 「正法寺中興開山栄俊について」
『日本歴史』 第157号 吉川弘文館
- 利根川宇平 1971 「武州松山城主・上田氏について」
『年報後北条氏研究』 創刊号 後北条氏研究会
- 利根川宇平ほか 1971 『松山城跡—比企の自然と文化財シリーズ—』
比企の自然と文化財を守る会
- 長沢史郎 1994 『武州松山城』 比企郡吉見町
- 中井 均 2008 「戦国大名北条氏の城」
『三館連係シンポジウム 後北条氏の城—合戦と支配—』
博物館周辺文化財の複合的活用事業実行委員会
- 中島岐視生ほか 1991 『第4次調査 山口城跡』
所沢市文化財調査報告第29集 所沢市教育委員会
- 中田正光 1982 『秩父路の古城址』 有峰書店
- 中田正光 1983 『埼玉の古城址』 有峰書店
- 中村倉司ほか 1979 『白石城』 埼玉県遺跡調査会報告書第36集
埼玉県遺跡調査会
- 西口正純 1995 「11. 寄居町要害山城跡の調査」
『第28回遺跡発掘調査報告会発表要旨』 埼玉考古学会

- 博物館周辺文化財の複合的活用事業実行委員会編 2008
『後北条氏の城—合戦と支配—』3館連係シンポジウム
- 橋口定志 1987 「中世居館の再検討」 『東京考古』 第5号
- 橋口定志 1990 「中世東国の居館とその周辺
—南関東におけるいくつかの発掘調査事例から—」
『日本史研究』 330号
- 橋口定志 1991 「方形館はいかに成立するのか」
『争点日本の歴史』 4卷中世編 新人物往来社
- 橋口定志 2014 「清戸道の復権（上）、（下）」
『豊島区資料館「かたりべ」113、114号』豊島区立郷土資料館
- 橋本富夫・今井正文 1988 『昭和62年度桶川市遺跡群発掘調査報告書』
- 長谷川典明ほか 1995 『御嶽城跡調査研究会報告書』御嶽城跡調査研究会
- 伴瀬宗一 1998 『要害山城跡』〔財〕埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 伴瀬宗一 1999 『菖蒲城跡』〔財〕埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 伴瀬宗一 2001 『私市城武家屋敷跡』〔財〕埼玉県埋蔵文化財調査事業団
- 東松山市 1981 『東松山市史』考古資料編第1巻 原始・古代・中世
遺跡・遺構・遺物編 東松山市
- 比企地区文化財担当者研究協議会 1994
『比企郡における埋蔵文化財の成果と概要』
- 平田重之 1999 「大里地域の中世遺跡」
『埼玉の文化財』第40号 埼玉県文化財保護協会
- 深谷上杉顕彰会編 1996 『深谷上杉氏史料集』深谷市教育委員会
- 深谷上杉・郷土史研究会 2016 『深谷中世文書集』第2集
- 深谷市教育委員会 1991 『深谷城跡（第3次）』
- 深谷市教育委員会 1996 『深谷城跡（第4次）』
- 深谷市教育委員会 1997 『深谷城跡（第5次）』 『深谷城跡（第6次）』
- 深谷市教育委員会 1986 『東方城山遺跡群』
- 深谷市教育委員会 1988 『東方城跡』
- 福島正義 1985 「第5章第2節 南北朝の動乱と国人の動向」
『東松山市の歴史』上巻 東松山市
- 福島正義ほか 1981 『所沢市史中世史料』 所沢市
- 藤木久志 1985 a 「第5章第2節」 p.450～454
『東松山市の歴史』上巻 東松山市
- 藤木久志 1985 b 「第6章第2節 扇谷の重臣上田一族」
『東松山市の歴史』上巻 東松山市
- 藤木久志 1995 a 『雑兵たちの戦場』 朝日新聞社

- 藤木久志 1995 b 『戦国史を見る目』 校倉書房
- 藤木久志 1997 a 『村と領主の戦国世界』 東京大学出版会
- 藤木久志 1997 b 『戦国の村を行く』 朝日選書 579
- 富士見市教育委員会 1999 『難波田城跡』
歴史公園整備に伴う発掘調査報告書
- 本庄市 1989 『本庄市史』 通史編Ⅱ
- 松岡 進 1991 「戦国期における「境目の城」と領域」
『中世の城と考古学』 新人物往来社
- 御嶽城跡調査研究会 1995 『御嶽城跡研究会報告書』 神川町教育委員会
- 村上伸二 2005 『埼玉県指定史跡杉山城跡第1・2次発掘調査報告書』
嵐山町教育委員会
- 村上伸二 2008 『埼玉県指定史跡杉山城跡第3～5次発掘調査報告書』
嵐山町教育委員会
- 村端和樹 2007 『戸宮前Ⅱ / 在家Ⅱ』
(財) 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告第342集
- 柳田敏司編 1974 『日本城郭大系』 5埼玉・東京 新人物往来社
- 山口 貢 1980 「真田城」 『日本城郭大系』 新人物往来社
- 山崎 一 1972 『群馬県古城塁址の研究』 上巻・下巻・補遺編上巻
群馬県文化事業振興会
- 山崎 一 1979 『群馬県古城塁址の研究』 補遺篇下巻
群馬県文化事業振興会
- 山崎 一 1984 「山内上杉氏の城塁遺構の考察」 『武蔵野の城館址』 名著出版
- 山崎 一 1988 「第2章2 上野における中世城館の特色」
『群馬県の中世城館跡』 群馬県教育委員会
- 山本 靖 2016 『浦山城跡』 埼玉県埋蔵文化財調査事業団報告書第423集
- 矢守一彦編 1981 『浅野文庫蔵諸国古城之図』 新人物往来社
- 吉川國男ほか 1974 『青鳥城跡』 埼玉県遺跡発掘調査報告書第6集
埼玉県教育委員会
- 吉田町教育委員会編 1982 『吉田町史』
- 寄居町教育委員会 1986 『寄居町史』 通史編
- 寄居町教育委員会 1998 『史跡鉢形城跡 1998』
—平成9年度発掘調査概要報告
- 寄居町教育委員会 2000 『史跡鉢形城跡 2000』
—平成10年度発掘調査概要報告
- 寄居町教育委員会 2006 『史跡鉢形城跡第Ⅰ期保存整備事業発掘調査報告』
- 嵐山町 1997 『嵐山町博物誌』 第5巻 嵐山町の中世
- 嵐山町教育委員会 1992 『杉山城跡保存管理計画書』

- 若松良一 2001 『箱石遺跡Ⅱ』
（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団調査報告書第 267 集
- 和田晋治 1999 『難波田城跡—歴史公園整備に伴う発掘調査報告書—』
富士見市文化財報告第 50 集 富士見市教育委員会
- 渡辺 一 1982 『花崎遺跡』加須市遺跡調査会
- 渡辺一ほか 1983 『白石城Ⅱ』美里村遺跡発掘調査報告書第 2 集
- 蕨市 1991 『蕨市史』資料編 1 古代・中世

おわりに

この本は、多くの方々の協力を頂いて再編集することができた。調査は堀口進午さんを始め、城郭が好きでたまらない山下実さん、また、長年嵐山史跡の博物館に拠点を置いてボランティアをしながら調査を楽しんできた城郭探訪会の皆さん、秩父等の史料を多く調査し、新たな知見を提供してくれた新井克彦さん・栗原一夫さん、資料提供を快く承諾してくれた関係教育委員会の調査関係者の方々等、多くの方の協力と援助があった。記して感謝を申しあげたい。

最近、城郭のできた歴史的背景を研究調査する事の重要性を認識する中で、専ら、戦国史料を紐解き、整理・分析することに傾注してきた。目にする事が出来る戦国史料は限定的であるが、近年盛んに行われてきた都道府県史や市町村史編纂によって、多くの史料が発掘され、公にされてきた。おかげで、地方にいながら詳しい史料を手中にする事も可能となった。また、考古学的手法による中世遺構の発掘調査も盛んに行われ、城郭などの遺構の年代観が具体的に示されるようになった事も、研究を進展させるに大きな原動力となった。埼玉県では浅野晴樹氏をはじめ、中世考古学に関心を寄せる研究者が陶磁器等の編年をベースにした研究を引っ張ってくれて、多くの若い研究者が「中世を歩く会」に集まり、研鑽を深め、発掘調査の史料が歴史上に位置づけられるようになったのも大きい。この様な研究成果を頂いて、私の城郭研究も遅々としてではあるが、戦国史研究の一環として、自己への刺激と楽しみを中心に、前に進めている。ただ残念なことに城郭は、その対象が広大な故か細かい調査が行われることが少なく、まして、発掘調査される城郭の数は限定的で、大きな進展は今後も望めそうもない。

私は、埼玉における城郭研究の先進的研究を世に問おうとしているわけでは無い。この本を出す狙いは、今戦国史に関心を寄せる方々が多く、多くの施設で、数多くの講座や、シンポジウムを開いているが、何れも盛況

で定員を遙かにオーバーする希望が殺到しているのが現状である。こんな中で、多くの皆さんから埼玉の城郭がわかる一般向けの解説本を求められてきたので、これに少しでも応えることができればと言う思いで、再出版することにした。内容にできるだけ、最新の研究成果を取り入れ、新鮮さを挿入したつもりであるが、独りよがりな着想で、勝手な解釈をしているかも知れない。城郭調査等、中世関係の文化財調査等に36歳で足を踏み込んでから、36年がたってしまった。もう斬新さが求められる年齢を過ぎてしまい、今更という感もしないでは無いが、求められるままに出版することにした。

城郭は足で歩いて調査をし、戦国史を詳細に学んで、地政学的な視点をも十分に検討して、歴史的意義付けを行わなければ、その評価はできない。これを踏み台にしていただいて、埼玉の城郭研究等を進展させてくれることを願っている。

2017年10月1日

著者識す

著者略歴

梅沢太久夫 (うめざわ たくお)

1945年 埼玉県秩父郡東秩父村に生まれる。
1968年 埼玉大学教育学部卒業。
1968年～ 埼玉県教育局・県立博物館等に勤務。
1998年～ 埼玉県立歴史資料館長等を歴任
2006年 定年退職
元・埼玉県文化財保護協会副会長。

主な著書

『日本城郭大系』第5巻「東京・埼玉」（共著 新人物往来社）
『慈光寺』（共著 新人物往来社）
『城郭資料集成 中世北武蔵の城』（岩田書院）
改訂版『武蔵松山城主上田氏』—戦国動乱二五〇年の軌跡—（まつやま書房）
『戦国の城』（共著 古志書院）
『北条氏邦と藤田氏』（共著 岩田書院）
『関東の名城を歩く』南関東編（共著 吉川弘文館）
『関東争奪戦史 松山城合戦 戦国合戦記の虚と実を探る』（まつやま書房）
『戦国の境目 秩父谷の城と武将』（まつやま書房）
『武蔵上田氏 論集 戦国大名と国衆⑯』（共著 岩田書院）
『北条氏邦と鉢形領支配』（まつやま書房） 他多数

埼玉の城 127 城の歴史と縄張 【改訂版】

2023年10月20日 復刻版初版第一刷発行
2018年1月30日 初版第一刷発行
2020年1月30日 初版第二刷発行

著者 梅沢太久夫
発行者 山本 正史
印刷 日本ワントウワンソリューションズ
発行所 まつやま書房

〒355-0017 埼玉県東松山市松葉町3-2-5
Tel.0493-22-4162 Fax.0493-22-4460
郵便振替 00190-3-70394
URL:<http://www.matsuyama-syobou.com/>

©TAKUO UMEZAWA

ISBN 978-4-89623-207-3 C0021

著者・出版社に無断で、この本の内容を転載・コピー・写真絵画その他これに準ずるものに利用することは著作権法に違反します。乱丁・落丁本はお取り替えいたします。定価はカバー・表紙に印刷してあります。